

# プラダ ブティック青山店

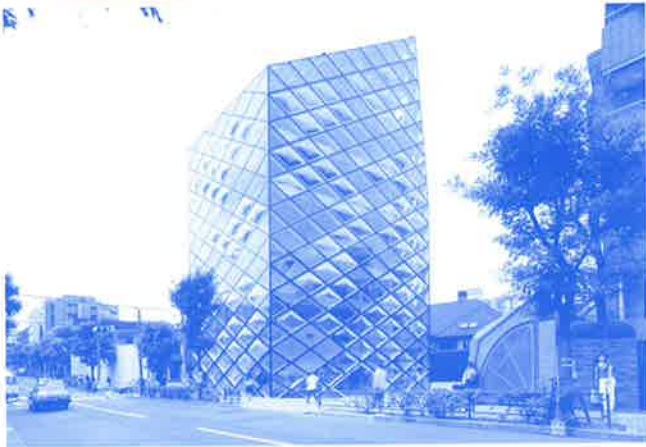
建築主：プラダ ジャパン株式会社 Davide Sesia  
 設計者：株式会社 竹中工務店 小塚裕一、中井政義、大畑勝人  
 施工者：株式会社 竹中工務店 岡崎俊樹

## 免震化した経緯及び企画設計等

プラダの日本での旗艦店として斬新なデザインを志向した外殻は、ガラスファサードと一体となった斜め格子構造である。①外殻格子面内に鉛直材・水平材を配置しない、②仕上げを含めた格子材の寸法は見付け：250mm、奥行き：300mm、③2、4、5階には外殻に面した床吹抜けを設けるなどの設計コンセプトの実現のために、外殻架構への地震入力を極力小さく抑えることが構造上の主題であり、それにより地震時の変形を小さくすることがファサードの設計上重要となる。そこで、本建物を免震化することを建築主及びアーキテクトに提案し、採用されるに至った。

## 技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

外殻架構の上下伸縮を抑えるため、引張材としての梁材を地上階の床外周に配置し、格子の交点で外殻格子材と接合することにより床荷重を伝達させている。外殻架構は建物重量の約50%、水平荷重のほぼ100%を負担するが、格子材の中で荷重を確実に伝達できるのは、その上下端部が床外周梁に繋がれた部材のみである。この条件下で、地下1階床下での免震構造を導入することにより、格子材の鉄骨断面を幅150mm、成250mmの組立てH形鋼で成立させている。また、これにより大地震時における各菱形ユニットの水平及び鉛直変形を小さく抑えることができ、格子材を覆う耐火材が直接仕上げとなりガラスファサードの支持材であるという、設計コンセプトを実現するとともに、ガラスサッシ部のコンパクトなディテールを可能としている。



建物外観 (みゆき通り表参道側より)

## 建築概要

建設地：東京都港区南青山5丁目2-6  
 建築主：プラダ ジャパン株式会社  
 デザイナーキテクト：Herzog & de Meuron  
 アソシエートアーキテクト：株式会社 竹中工務店  
 施工：株式会社 竹中工務店  
 竣工：2003年5月  
 建築面積：369.17㎡ 延床面積：2,860.36㎡  
 階数：地上7階、地下2階、高さ：32.457m  
 構造種別：S造、RC造

## 選評

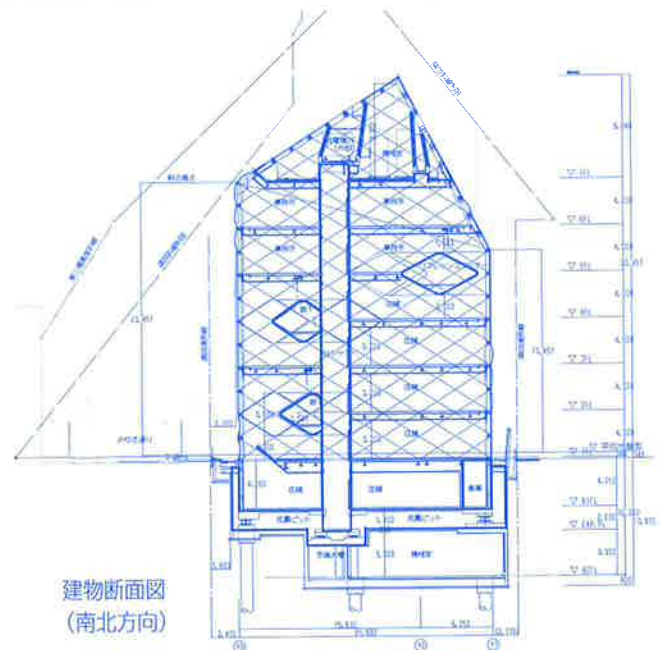
計算機の高度化と普及は、建築様式の新たな挑戦に寄与している。ポストモダニズム建築の後に出てきた様式は、ビルバオのグッゲンハイム美術館に始まり、仙台メディアテーク等で、デジタル建築と呼ばれているが、ウルトラモダニズム建築の名が一般的である。

その特徴は、梁や柱の概念が無く、構造の性能は、計算機によるシミュレーションによってのみ確認されている。グリッドの無い建築は、施工のデジタル化によって可能で、建築の良し悪しは、施工精度に依存している。

斜め格子の外殻構造は、立体効果は無く、方向性の無い5つの斜め格子のフレームが床で繋がれた構造である。各格子は、床外周の梁で水平変形を抑えているが、垂直材が無いので剛性が小さく、地震力による変形が大きくなる。一方、構造とファサードが一体になった斜め格子には、特殊なガラスが組み込まれ、大地震時にガラスの破損を防止するために変形制限が設けられている。

この外殻構造は、大半の地震力を分担し、変形が大きく、制限を満足するために免震構造を採用し、変形を小さくすることで可能になっている。これは、免震構造によって、空間、構造、ファサードを一体とした建築を可能にした典型的な建築である。

内部は、カラーニを連想させる淡い色彩の曲面の世界で、宇宙船に乗っているようである。免震構造を思わせるものは見当たらないが、免震構造を用いた優れた作品である。  
 (大越 俊男)



建物断面図 (南北方向)



1階エントランス外観

1階店舗内観